

『奇跡の生還』 を振り返って・・・

1988年にアルメニアで起こった地震。がれきの下から見つかった兄を助けるために妹のジュリエッタがついた「うそ」は、兄を他の人よりも先に医者に見てもらうためのものでした。ジュリエッタ、兄、治療にあたった医師、順番待ちしていた人々……。みんながジュリエッタと同じ行動をしたら、この場面は一体どうなっていたのでしょうか？立場を変えればいろいろな意見がありますが、多くの人が助けを必要とする中でも認められることと、越えてはいけないう線があることに気づき、どう行動すればよいのか、しっかり考えていく必要がありますね。

<みんなの感想より>

- 「嘘はいけないことだけど、人を守るための優しい嘘ならついてもよい」そう思っていました。たとえ優しい嘘でもその結果、人が苦しんだり、自分が罪悪感を感じてしまえば、ただ嘘をつくよりもっとつらいはず。その行動をとることで何が起るか、どう思われるかをしっかり考えることは大切だと思いました。
- 自己中心的な行動はとってはいけなし、もしそれが他の誰かのためであったとしても、周りに同じような人がいるのなら、行ってはならない。そうすれば自分を後々責めることになるかもしれない。だから自己中心的な行動はしてはならない。こういうときこそ思いやりの心は大切なんだと感じた。
- 第三者の視点でみたら、冷静な判断を下すことができるけど、もしそれが自分だったらと考えると、パニックになっているんじゃないかなと思います。「嘘」はいけないと頭でわかっていても違う行動をしてしまうほど、ジュリエッタの兄を助けたいという気持ちが強かったんだとわかりました。ジュリエッタに「大切な人を助けたいにはみんな同じ」ということを考えてほしかったです。
- 自分、自分・・・の考え方だと何も始まらないと思った。どんな状況でも一歩引いて物事を考えることで、そこには思いやりの輪が広がったり、物事が良い方向に向かうと思う。私はそんなジュリエッタみたいなピンチの状況に今は立ったことがない。しかし、自分中心に考える視点はやめようと思う。
- 私がジュリエッタの立場だったら、彼女と同じ行動をとらざるを得ない。ただ、他の人のことを考えたら許されることではないと思う。自分の命や家族の命が危険にさらされてしまうと、あわてて主観的にしかものが見られなくなるので、どんなときでも落ち着いてしっかりと対応することが大切だと思う。
- 命を救うためについたうそで、兄は救われたからよかったけれど、命の大切さは平等だからそれを判断するのはとても難しいと思いました。自分の思っていることは相手と全く逆かもしれないから、相手の立場、様々な角度から物事を考えることが大切だとわかりました。私も普段から相手の立場に立って考えられるようにしたいです。
- 最初、一つの立場から考えていると嘘をつかれて順番もぬかされてすごく嫌だと思っていたけど、自分がもしジュリエッタの立場だったらと考えると家族のために動いていたかもしれないと思う。人それぞれ立場、考えは違うけれど、自分の立場だけで考えるのではなく、他人の立場から考えて行動することも大切なのではないかと思った。